

石巻支援に参加して

2014/3/15~16

埜歩歩 沖 あけみ

今回はワカメの収穫後の加工作業ということでした。

どれだけのことができるのか？足手まといにならないようにしなければお手伝いをする意味がないと、かなり張り切ったの参加でした。結果、助かったと言って頂き安堵した次第です。経験を生かして来年も行きたいと思っています。 昨年秋以来の石巻でしたが、あちこち、工事は着工中ですが未だ速度は遅いように感じています。

大川小学校では、逝った方、残された方たちの心情を思うと込み上げるものがありました。



埜歩歩 金子節子

猫の手も借りたい程のワカメの収穫時期。猫の手以上の働きをしようと参加しました。すべてが初めての体験、めかぶの茎から外す作業、V字の切れ味の良さ、気持ちすっきり疲れませんでした。午後からの作業は、ワカメの部分の繊細な作業、感動しました。これからはワカメを頂くとき、こころして頂きたいと思います。



埜歩歩 市原 完治

石巻支援ボランティアに参加し、3回目の石巻となります。先ず感じたことは漁村の方たちが早朝から海に出てワカメを収穫し、漁港へ船いっぱい積み上げて帰る。漁港では漁村の方達が待ち受けリフトで陸揚げ、そのままワカメ選別工場へ運搬、そこでは作業員の方が、てさばきよく区分、漁業協同組合へ納品、製品へと仕上げる。その光景は、震災後の住民の方達の活気ある姿で脳裏に焼き付いた。又、震災当時の津波で高台へ避難した時の状況は、テレビ等では知りえないことを聞き、海岸線に住んでいる人たちの力強さ、感の鋭さに感動しました。早く震災前の生活に戻れるよう、今後もボランティアに参加し現地の復興に協力していければと思っています。



大宮労山 高橋 克己

感慨深い話と共に、大震災の状況を目の当たりにして、『百聞は一見に如かず』とはよくいったものと改めてショックを受けました。が、実際に被災した方の気持ちは私には想像できない深く複雑なものとも思っています。そんな中でも作業現地（メカブと茎からメカブを切り取る作業）の方はありがたいことに笑顔で暖かいおもてなしで接して下さり、ホッと致しました。貴重な体験をさせていただき有難うございます。機会があればまた参加致しますので宜しくお願い致します。

